

写真缶

お客様とキタムラをつなぐ
コミュニケーション情報誌

特集：日本の冬 各地方の風土と伝統が映える季節

Vol.11 Winter

平成6年12月1日発行 季刊第11号

カメラのキタムラ広報室

〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1 ☎045-476-0777



雪国の祭には、厳しい冬の象徴である雪と、人間の喜び・温かさとの対比の妙や情緒がある。湯沢の「犬っ子まつり」の夜、雪の祠に拝む子供の姿を灯を利用して逆光撮影。光を加えて雪田気を盛り上げた。(秋田県・湯沢)
■ミノルタα-8700i AF80~200mm F2.8 1/15 AE RDP
三脚使用



各地方の風土と伝統が映える季節。

日本の

冬

四季の変化と、各地方ごとの地域性に富んだ日本の風土。こうした他国に例を見ない豊かな風土が織りなす季節ごとの景観の中でも、冬の景色には、地域ごとの個性あふれる風情を楽しむことができます。そしてそんな日本の冬の表情の中でも、特に北国に広がる「雪景色」は、自然の美しさや情緒・神秘性を強く私たちに感じさせるもののひとつです。しかし、この美しい景観の裏には、雪国に生

きる人々が、厳しい積雪と闘う姿も見られます。屋根の雪降ろしをはじめ、家々が軒先から雪よけとなる庇を連ねた「雁木」、また道路に積もった雪を流し込むために延々と掘られた「流雪溝」などには、激しい雪に立ち向かうため、お互いに支え合い、協力し合って生きてゆこうとする、雪国の人々の力強さが感じられます。また、こうした生活環境の厳しさとともに、

雪国ならではの楽しみが数多くあることも、忘れてはなりません。秋田県の名物である「なまげ」や「かまくら」、そして札幌に代表される「雪まつり」などは、情緒あふれる年中行事として良く知られています。さらに雪国には、冬季の食料の保存法として有効な「雪室」、雪降ろしの手間を省く「台掌造り」の家屋、寒くて雑菌の少ない地方だからこそおいしく作れる「野沢菜」や、北の海で獲れた

ばかりの鮭や鱈などを使った「鍋料理」、そして「いろり」や「掘り炬燵」を開くので家族の語りなど、昔ながらの知恵を工夫・改良し、今に伝えているさまざまな冬の文化が存在します。冬に雪国を訪れる人は、寒さが厳しい土地だからこそ、暖かい心のこもった営みや、ふれあいの文化がそこにあることを、あらためて気づかされることでしょう。

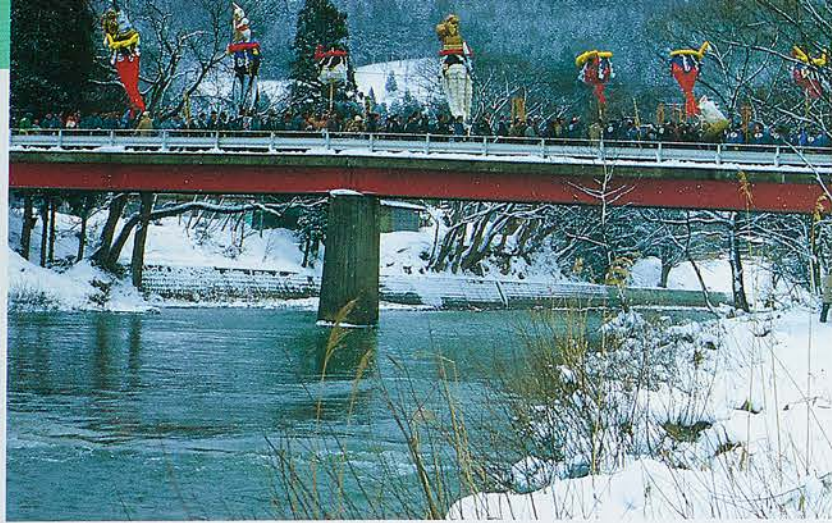


風が写り込んだ、厳しい吹雪の世界は写真的である。遠くの落葉松林を雪のベールで黒から灰色化して力を弱め、その分、手前のものが生きる。普通では目立たないクマザサが主役化した。(長野県・美ヶ原)
■キヤノンEOS-1 EF80 ~200mm F2.8L 1/60 AE PVP 三脚使用



人は眼高位置からすべてのものを見ているので、写真もその角度から撮るのが自然だが、いつもと違った角度から撮ったものも新鮮な魅力がある。シシウドに積もった雪を、寝転んで青空をバックに撮影。(長野県・美ヶ原)
■キヤノンEOS-1 AF28~80mm F2.8 ~4L f16 1/60 RVP

祭の写真は「どこを何時頃に通るか」「どの場所が写真に最適か」など、事前の調べが必要。橋の上から空バックで勇壮さを出した横手の「梵天まつり」。そして雪国を感じさせる川には訪春の気配が。(秋田県・横手)
■ミノルタα-8700i AF80 ~200mm F2.8 1/125 AE RDP 三脚使用



荒天の後にはその痕跡が残る。夜来の吹雪が岩に吹きつけ、「エビのシッポ」を作った様は迫力がある。遠くの樹氷を副題化することで主題を説明したが、この場合その大きさやピントの度合が大切。(長野県・美ヶ原)
■キヤノンEOS-1 EF80~200mm F2.8L f22 AE+1/3 RVP 三脚使用



飛翔する鳥には瞬時の反射神経でピント・構図を整えねばならない。偶然性が大きいので、とにかく撮り続けること。その中に意図したものが生まれる。シャッターは高速、手持ち撮影で。(北海道・屈斜路湖)
■キヤノンEOS-1 EF80~200mm F2.8L 1/500 AE+1/3 RDP



雪の中、合掌の家に灯がともる。降雪が最高の時の写真は難しく、技術を駆使せねばならない。家に露出を合わせてストロボ発光。手前の家が大きくボケるよう、絞りは開放気味が最適。(岐阜県・白川郷)
■ミノルタα-8700i AF28~85mm F3.5 1/125 AE RDP 三脚使用



「雪」は、自然と人との出合いを招く 冬の演出家。

高田誠三(風景写真家)

一面の銀世界や、正月行事を中心とした催しなど、趣のある風景が各地で見られる日本の冬。雪景色をはじめ、冬を題材とした作品も多い風景写真家・高田誠三氏に冬の魅力や撮影時の心構えなどについて語っていただきました。
※なお、表紙及び特集ページに掲載した写真は、すべて高田氏の作品です。

北国志向の私は、雪の「ロマン」と「厳しさ」を追っているんです。

かつて私は商業写真を中心に手がけていたのですが、一時からだをこわしまして、もともと風景が好きだったこともあり、じつくりと取り組める風景写真を撮るようになりました。同じ風景写真家でも、面白いもので、大きく分けて「北国志向」と「南国志向」のタイプがいるようなんです。それでいうと、私などは典型的な「北国志向」ですね。これはもう理屈ではなく、自分の体質的なものでしょうが、冬の冷たい空気が真つ白い雪に触れるとカメラマンとしての心が騒ぐんです。



最終のバスが走ってきた。雪景は夕刻になると、色温度が高くブルー色となる。逆に夕焼け空は低温で赤くなる。視覚では感じない色彩だが、そのことを知って被写体を狙うと多彩な写真が撮れる。(青森県・酸ヶ湯) ■キヤノンEOS-1 EF80mm F2.8 L 1:16 AEマイナス2/3 RVP 三脚使用



写真は朝夕にあり、昼は寝ておれ。光効果を説いた言葉だ。魅力的なのは斜光・逆光・暖色の光。風景写真家は日の出前に起き、この一瞬を待つ。燃えるような紅色は、日の出とともに消えてしまう。(長野県・美ヶ原) ■キヤノンEOS-1 EF80mm F2.8 L 1:11 AE RVP 三脚使用

雪さえ降れば、どこでも魅力的な撮影ポイントとなるんですよ。

雪はどんな所に降っても、実に魅力的な被写体となり得ますから、雪景色の撮影場所は、基本的に雪さえ降ってくればどこでもいんです。以前、私の地元大阪で、めったにない大雪が降った日、私はたまたま信州の方まで雪の撮影に出かけていたのですが、ニュースで大阪の雪のことを知り、「しまった」と思っただけです(笑)。都会に降っ

立枯れの樹の乱立する横岳。雪装した厳しい姿を期待して訪れると幸運にも晴天。こんな時の露出は難しい。AE機構は反射率の低い青空に作動するのでマイナス補正をしないと樹木の質感は出ない。(長野県・横岳) ■ミノルタα-8700i AF28~85mm F3.5 F16 AE-1 RDP 三脚使用



ただ、より美しい雪に出合うために、積極的に出かけてゆく労を惜しんではいけません。うんです。そういう意味では、信州の上高地には、通算で100回は足を運んでいます。朝夕の太陽に照らされる穂高連峰をはじめ、豊かな自然と雪とがマッチして、非常に美しい所です。また冬だけでなく、一年を通じて、行きたびに違った姿を見せてくれるので、何度行っても飽きないだけの魅力があるんですよ。

雪と人とが深く関わる姿は、被写体として興味深いですね。

雪国に撮影に出かけるなら、正月行事を中心とした、情緒のある祭などにも注目すれば、絶好の被写体となります。横手の「梵天まつり」や「かまくら」、湯沢の「犬っ子まつり」など、雪と人との深い関わりというものがあります。感じられ、非常に興味深いものがあります。私もこれらの行事が行われる日に合わせて毎年撮影に行っています。雪というのは北国の人にとってはとても厳しい自然現象ですから、ある意味では人間よりも力を持っているんです。それを人間が尊重し、生活に受け入れている姿に心を打たれますね。

こうした行事を撮影する上では、ただ面白そうだからと出かけて行って撮るだけでなく、それらが持つ意味合いや成り立ちなど、背景にあることがらを前もって調べてみることも大切です。その行事のポイントやクライマックスはどこなのかということも、撮影に大きく影響してはくはずですから。



地上を白一色で染め上げた雪は背景としても映える。白川郷で時々行われる、獅子と子供が絡み合う伝統行事は、冬が最も写真的だ。踊る姿の美しい一瞬を、動きの中から捕らえなければならない。(岐阜県・白川郷) ■ミノルタα-8700i AF28~85mm F3.5 1/125 AE+0.5 RDP

地道な苦勞が、良い被写体との出合いをかなえてくれるんです。

そういった意味では、いい写真を撮るために大切なのは、その場でのひらめきや才能よりも、地道な努力だと思えます。特に寒くて険しい所へ雪を撮影に行くというのは、撮る側からすれば大変な苦勞ですが、そこで楽しませてはくれないんです。私も昔は30kgもあるカメラ・機材を担いで険しい雪山へ登ったものです。目の前にいい被



降雪の撮影は暗いバックカストロポが発光で。そして切片が止まるようにシャッタースピードを合わせる。細かい雪の降る湖畔での撮影。試みにストロボを同調した下の写真の方が、幻想的な降雪感が出た。傘をさすなどしてカメラと雪の距離をとらないと、レンズ近くのものが大きくボケるので要注意。(長野県・上高地) ■キヤノンEOS-1 AF28~80mm F2.8~4L 1/125 RVP (下の写真はストロボ同調)

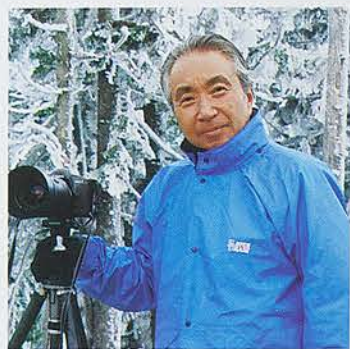
近未来な寒波が関西を襲った。こんな時自然は日頃見せない風景を作る。赤目深谷を訪れると、凍結の水が回りながら結氷し、丸い連葉水となった。寒さに負けずに行動すれば、こんな出合いがある。(三重県・赤目深谷) ■キヤノンEOS-1 EF80mm F2.8 L 1:1/60 AEマイナス0.5 RDP 三脚使用



写体があったとしても、いちいちカメラをセッティングすることさえ面倒に思えるような厳しい撮影でした。当たり前ですが、例えばこうした状況でも、自分に負けずにきちんと撮影をこなしてゆくことが、いいカメラマンになれるかどうかの分かれ道だと思えます。アマチュアの方にはよく、「楽な方法と苦勞する方法があったら、あえて苦しい方を選ぶくらいでないと、いい写真は撮れない」と話していますが、これは私自身にも今もって言い聞かせていることです。あらゆる点で最大の努力を払ってあげれば、おのずと「良い被写体」や「新しい発見」に巡り合えるはずですから。



子供はいつもよい表情してくれる。祭の日などは全身でその喜びを現す。そんな子供の世界に入り込むには、カメラを子供の目の高さで構える。大人の目は、可愛く子供を撮りたい時の角度。(秋田県・横手) ■ミノルタα-8700i AF80~200mm F2.8 1/250 AE RDP



たかだ せいじろう
1928年大阪府生まれ。大阪府立大学卒業。大阪芸術大学教授、全日本写真連盟理事、日本写真家協会会員、浪華写真倶楽部会員。著書:写真集「彩々流転」。

見知らぬ町で土地の風俗、歴史に触れる冬の祭

旅をする時、祭の日を選んで行ってみるのもその楽しみの一つでしょう。見知らぬ町で土地の風俗、歴史に触れる味わいを……。また、写真の被写体としてもアルバムの一頁を飾ることでしょう。祭にもいろいろありますが、冬の代表的なものを全国から選んでみました。

- 1** 2月6~12日 さっぽろ雪まつり 北海道札幌市大通り公園と真駒内
巨大な雪像が並ぶ北海道最大の祭り。
J R札幌駅下車、徒歩10分。問合せ☎011-211-2111
- 2** 1月7日 柳津の裸祭り 福島県河沼郡柳津町 円蔵寺
ふんどし姿の信者たちが競い合って堂の麻の緒に飛びかかる。
J R只見線柳津駅下車、徒歩5分。問合せ☎0241-42-2111
- 3** 2月12日 国府宮はだか祭 愛知県稲沢市国府宮 尾張大國御霊神社
数万の裸の男たちが厄落しに集まる、千年以上続く奇祭。
名鉄線国府宮駅下車。問合せ☎0587-32-1111
- 4** 12月8日 お火焚く大祭 滋賀県八日市市 阿賀神社(通称太郎坊宮)
数百人の修験者が30万本もの護摩木を焚き無病息災を祈願。
J R東海道本線近江八幡駅で近江鉄道に乗換え太郎坊宮駅下車。
問合せ☎0748-23-1341
- 5** 2月2~3日 節分会 京都市左京区 平安神宮
乱入した鬼を大舎人と子供たちが追いつ追いつ追いつ儀式(節分)。
J R京都駅から市バス30分。京都美術館前下車。
問合せ☎075-222-3111
- 6** 12月15~18日 春日若宮おん祭り 奈良県奈良市 春日大社ほか
雅びな能装束の行列、数々の芸能が奉納される由緒ある祭礼。
J R奈良駅下車徒歩バス。問合せ☎0742-34-1111
- 7** 1月9~11日 十日戎 大阪市浪速区 今宮神社
商売繁盛を祈る人々が福娘から縁起ものの福笹を買い求める。
J R大阪環状線新今宮駅下車。問合せ☎06-208-8181
- 8** 1月7日 長尾観音大会陽 香川県大川郡長尾町 長尾寺
福を呼ぶ宝木と福餅を奪い合う(福奪)。180キロを超す鏡餅を運ぶ競争も。高松琴平電鉄長尾線長尾駅下車すぐ。
問合せ☎0879-52-2511
- 9** 1月3日 玉せせり 福岡市東区箱崎 筥(はこ)崎宮
幸運を授ける玉を、締めこみ姿の男たちが奪い合う勇壮な祭事。
J R博多駅下車。問合せ☎092-711-4111

高田誠三先生の冬景色作品例

※背景のイメージ写真は、高田誠三氏作品ではありません。

交通便利な冬の撮影地ガイド

雪原など厳冬の自然が撮影できるポイント、あるいは冬らしさを表現できる地域であることに加えて、撮影目的地としてできる限り交通の便が良い所を全国から探してみました。

- 1** 大雪山・旭岳 北海道
厳寒の雪景色の中に旭岳から噴気があがるモチーフがある。旭川駅から旭岳温泉までバス、旭岳温泉からロープウェイで姿見。
J R函館本線旭川駅下車、バス1時間35分。
問合せ・大雪山ハイランド☎0166-97-2234
- 2** 十和田湖 青森県・秋田県
厳冬期に入ると十和田湖岸に氷の結晶ができ、日の出、落日が美しい。
J R花輪線十和田南駅下車、バス1時間。
問合せ☎0176-75-2506
- 3** 蔵王 山形県
樹氷はあまりにも有名であるが、光の変化でそれぞれに顔が異なってくる。それだけに行くたびに感動を覚える。
J R奥羽本線山形駅下車、蔵王温泉行きバス45分。ロープウェイ、蔵王山麓駅から地蔵山駅。問合せ☎0236-94-9328
- 4** 山本山 新潟県小千谷市
小千谷縮みと錦鯉で有名な地。冬はスキーで賑わう。山頂展望台からの高原の朝日、越後山脈から昇る日の出前後が素晴らしい。霧の活用がポイント。
J R上越線小千谷駅下車、車で15~20分(雪が深いためカンジキがあると便利)。問合せ☎0258-83-3512
- 5** 千畳敷カール 長野県駒ヶ根市
白一色の雄大な山稜に自然の厳しさを感じさせる。富士山、南アルプスも遠望でき、樹氷も撮影ポイント。簡単に往ける割には本格的な山岳撮影が可能。
J R飯田線駒ヶ根駅下車、しらび平行きバス終点、千畳敷カールまでロープウェイ。問合せ☎0265-83-3107

- 6** 日本平 静岡県清水市
清水港が眼下に見え、南の駿河湾、伊豆半島の全景は雄大で展望は抜群。東にある冬季の富士山は見事な雄姿を仰ぐことができる。冬に限らず、風景写真のメッカでもある。
J R東海道本線静岡駅あるいは清水駅下車、バス40分。
問合せ☎0543-54-2420
- 7** 越前海岸 福井県シーサイドライン
日本海の悪天候は景色の色を消し、水墨画のようである。岩が海岸の間にできる波の華が良い被写体になる。カラーとモノクロで趣の違った写真が得られる。
J R北陸本線福井駅下車、越前岬行きバス70分。問合せ☎0778-37-1234
- 8** 樹氷高原 鳥取県大山町
大山を撮影する場所は周辺にもあるが、樹氷高原からの冬景色はまた格別。J R山陰線米子駅下車、バス大山行き樹氷高原、約1時間。
問合せ☎0859-53-3110
- 9** 九重連山谷掛山の霧氷 大分・熊本県境
九州で手軽に行ける霧氷の撮影地。本州ほどの冬山支度は必要ないが、滑りやすい所があるので注意が必要。
J R日豊線別府駅下車、亀の井バス牧ノ戸峠行きで終点まで2時間10分、さらに徒歩で30分。問合せ☎09737-6-3150



朝焼けの西穂の姿を撮りたくて、冬の上高地へ8年連続で行っている。好天に恵まれたのは4回だけで、それだけに失敗は許されない。この時はスポット測光、マイナス補正で段階露出を駆使した。(長野県・上高地)
■ミノルタα-7700i AF80~200mm F2.8 f11 1/125 RVP



流水の来たオホーツク海での早朝撮影。波と流水模様が朝焼けの空を反映している。泊まったホテルの屋上からの気軽な撮影だが、「写真は朝にあり」の鉄則を生かして幸運にも撮ることができた。(北海道・網走)
■キャノンEOS-1 EF80~200mm F2.8L f16 AE RVP 三脚使用



四十八滝といわれる赤目渓谷。その中の白眉という滝が凍ったと聞いて訪れた。いつも違った姿を披露してくれるが、この時は僅かの雪が見られた。解けた氷が鏡のように、滝の姿を写し出していた。(三重県・赤目渓谷)
■キャノンEOS-1 EF28~80mm F2.8~4L 1/60 AE-1/3 RVP 三脚使用



眼に見えない世界の表現は、それによって出来た風景を写すことしかできない。強風の吹き抜ける雪面で、夕陽の斜光はその凸凹を誇張する効果を出すライティングだ。マイナス20度の厳寒中の撮影である。(北海道・美幌峠)
■キャノンEOS-1 EF80~200mm F2.8L f16 AE RVP 三脚使用

三脚を使えば撮影範囲が大きく広がる!

「三脚を使えば」と言うと、皆さんはまず「カメラ振れの防止」を思い浮かべることでしょう。この振れの防止が撮影範囲を大きく広げることになります。また、同じフレームで多重露光をしたい場合には手持ちでは無理でしょう。つまり、手持ちで撮影不可能な被写体を可能にする道具と考えると下さい。

通常50ミリのレンズで、手持ちでカメラ振れが起きない限界は、シャッタースピードが1/60秒以上といわれています。F1.4で1/250秒に露出が合っていたとして、背景も入れるならF値を8にすると1/8秒になってしまいます。1/60秒のF値は2.8で背景を入れるのはなかなか難しくなりますが、三脚があればなんなく背景を写せます。

さらに望遠やマクロ撮影では、被写界深度が浅くなるため、ピントを正確に得るのに絞りに頼らざるを得なくなります。絞れば絞るほど手持ちではシャッターを切りにくくなります。



「三脚を使う」と言うと、皆さんはまず「カメラ振れの防止」を思い浮かべることでしょう。この振れの防止が撮影範囲を大きく広げることになります。また、同じフレームで多重露光をしたい場合には手持ちでは無理でしょう。つまり、手持ちで撮影不可能な被写体を可能にする道具と考えると下さい。

通常50ミリのレンズで、手持ちでカメラ振れが起きない限界は、シャッタースピードが1/60秒以上といわれています。F1.4で1/250秒に露出が合っていたとして、背景も入れるならF値を8にすると1/8秒になってしまいます。1/60秒のF値は2.8で背景を入れるのはなかなか難しくなりますが、三脚があればなんなく背景を写せます。

さらに望遠やマクロ撮影では、被写界深度が浅くなるため、ピントを正確に得るのに絞りに頼らざるを得なくなります。絞れば絞るほど手持ちではシャッターを切りにくくなります。

撮影アクセサリの中で三脚は重要な位置を占めています。「面倒」という理由で所持しない人が意外と多い。それでは撮影範囲が狭くなり、撮れる写真も逃す原因になります。三脚を使いこなして撮影範囲を広げて下さい。

三脚をなぜ使うのか

三脚を選ぶには

三脚を選ぶポイントにはカメラの重量、撮影目的によって異なりますが、一つの目安として、三脚の重さが3kg前後なら一眼レフの超望遠は無理でも、200ミリ前後までなら適しています。機動性を重視した撮影ならば、小型・軽量のものになりますが、1kg以下は一眼レフには不都合と考えた方が無難です。

また雲台は撮影目的によって選ぶ必要があります。手持ちではカメラを自由に動かさせても三脚に乗せるとかなり不自由になります。アングル変更を想定し、実際に操作してみても自分の手にシックリくるものを選びます。また、接写が多い場合には雲台を下向きに装填できるタイプもあります。最近では三脚の重要性が高まりアイデア三脚や一脚も開発され、便利な製品も多種あります。

購入の際の注意点としては、力を入れて外さなければならぬ、あるいは力を入れなければ縮まらない、解除できない、といった三脚・雲台は、材質の疲労が早いことから避けた方が無難です。

着物を見せる、多。ポーズが晴れ着姿の撮影ポイント

ワンポイント写真教室③



冬季は年末年始、成人式と女性が和服で飾る機会が多く、この晴れ着撮影は、カメラマンにとっても絶好の被写体といえます。多人数の女性が晴れ着で街を行く姿の撮影などは、この時期を逃がすとなかなかできないものです。またこうした情景写真とは別に「記念撮影をして……」と、頼まれた時は、カメラマンとして腕の見せ所ですが、和服となると撮り慣れないこともあって、被写体を前にして「ハテ、どうするか?」となりがちです。

撮影の心構えとテクニク

第一に「女性を撮影するなら、可能な限り美しく晴れ着に限らず、女性を撮るコツですね。第二としては、和服姿で緊張していますから気持ちを抑えらるようによいでしょう。」

若い女性は日頃、和服を着慣れていない上、振り袖は洋装とは違った体の部分を締めつけられますので、動きがぎこちなかったり、窮屈に感じています。撮影時にはこれをほくしあげること、表情が大きく違ってきます。

第三には着物の帯や袂(たもと)の柄(がら)を見せるようにしたい。

大事にしている衣裳ですから、女性として「着物を見せたい心理」が働いています。この着物をできるだけよく見せることが、晴れ着撮影のひとつのポイントです。イラストにもあるように帯やたもとをかなり強調して撮影してもさほど嫌味になりません。

第四はポーズが決めて。

和服を撮り慣れていないことで、正面からのワンパターンで終わるポーズを多く見かけま

す。第三とも関連してきますが、横を向かせたり、椅子などに座ってもらい、袖を大きく広げたり、手をえり元に持っていつて斜め上から撮るなど、思い切ったポーズをとってもらいましょう。

第五には背景を選びたい。

玄関での撮影に加え、和風の塀や神社仏閣などは、背景としてぜひ撮りたい場所です。着物の生地が柄ものですから複雑な背景は避けたいですね。



知って得る 写真おもしろ話③

ハイスピードシャッター

写真は静止画像の世界ですが、被写体を撮影する場合、シャッタースピードの違いによってその静止画がいろいろと変化してきます。例えば、川の流れを1/30秒より遅いシャッターで切ると川面が糸状に流れているように見えますが、1/250秒以上の高速で撮影すると、流れが止まっているように写ります。

感材(フィルム、印画紙など)が高感度化されたことにより、カメラ側でも高速シャッターが切れるようになってきましたが、高級一眼レフではシャッター最高速1/8000秒が常識化され、一部のカメラでは1/12000秒もありました。ひと昔前では考えられない高速化です。過去においては、1/250秒になり、高速シャッターと言われていたのですから、1/12000秒との比較では

実際に48倍も速く切れるようになっていきます。下の写真にある通り、ずめの羽ばたきもピタリと止まったように見えます。この停止状態が効果的な被写体になります。

その、高速撮影の特徴が活かされます。強風下の草木の揺れ、バットに当たったボール、水しぶき、モータースポーツ、各種のスポーツなどの動きをピタリと止めることができます。

なお、高速シャッターではピントの配慮が必要です。スピードが速くなればなるほど絞りが開放値に近づき、被写界深度が浅くなり、予測駆動フォーカスや置きピン(撮影したい場所にピントを合わせておき、被写体



1/12000秒 ミノルタα9xiで撮影



上 1/1800秒 ニコンF4で撮影
下 1/8000秒 ミノルタα9xiで撮影

そこに来た瞬間にシャッターを切る)などのテクニクを駆使して下さい。

カメラのキタムラ

第1回 おかたファミリー 写真コンテスト

作品募集のお知らせ=賞金・賞品総額150万円=

この冬、カメラのキタムラではご家族を被写体とした写真コンテストを開催します。お正月の集合写真や息子さんとの成人式などご家族(兄弟・親戚含む)で写っているものなら、なんでもOK!です。
※詳しくは、12月中旬よりカメラのキタムラ各店で配布される応募用紙またはポスターをご覧ください。



お便りコーナー

前号のテーマ「私の年末・年始の過ごし方」に対して、読者の皆さんからいただいたお便りの一部をご紹介します。

毎年クリスマスになると、母の手製の「チキンの丸焼き」を食べていました。またこの時だけは、フルーツワインを飲む事が子供にも許されていました。そして大晦日の夜は、毎年「すき焼き」。その残った肉をそばに入れ、年が明ける直前に食べるんです。その後で神社に行くのですが、なんでも「三つ神に参ると、一年辛が来る」とかで、元旦の朝にもまた、家族で30分歩いて山の上の神社へ参拝し、残る一つは各自でお参りしたものです。その頃は必ず元旦に「鯨のベーコン」を食べましたが、今では高価な上、結婚後は主人の実家が「元旦に刃物を使わない」風習なので、食べられなくてつらいですね。もう一度、思う存分味わってみたいものです。

出口晶子様 長崎県佐世保市

大晦日のテレビ番組といえば、何といっても「紅白歌合戦」です。私の場合、物心ついた頃から毎年「紅白」の視聴を欠かしたことがありません。最近では「紅白」も昔に比べると不人気で、それほど自慢にはならないかも知れませんが、ビデオにも昭和60年(1985年)の第36回から毎年撮って、残してあります。

磯部裕史様 三重県四日市市

この度は『チビッコ写真コンテスト』に入賞させていただきまして、まことにありがとうございます。「まさか!」と信じられない気持ちでいっぱいです。うれしくてうれしくて家族みんなで手を取りあい飛び上がって喜びました。ありがとうございます。

池田克人様 広島県福山市

お便り募集

次号のテーマ:「私がこの春から始めたいこと」

このコーナーでは、毎回季節のテーマを設けて皆様のお便りを募集しています。

次号のテーマは「私がこの春から始めたいこと」。春は心機一転して、様々な新しいことにチャレンジする季節です。そこで、仕事・勉強・スポーツなど内容を問わず、あなたがこの春から挑戦してみようと思っていることがありましたら、ぜひ誌上で紹介して下さい。

また、このテーマ以外のお便りやお写真、本誌に関するご意見・ご要望なども募集します。

お便りはハガキ・封書またはファックスで、

〒222 横浜市港北区新横浜2-4-1

カメラのキタムラ広報室 写真部「お便り募集コーナー」係
(ファックス番号 045-476-0778)

編 集 後 記

忘年会に新年会、クリスマスにお正月、成人式など、冬は写真撮影のチャンスがいっぱいの季節です。ごちそうやお酒をたくさん用意して、みんなで騒ぐのももちろん結構ですが、いつも愛用のカメラにフィルムを用意して、最高に盛り上がった瞬間の、楽しいシャッターチャンスもしっかり逃さないようにしたいですね。そして、冬の被写体といえば、なんといっても「雪」を忘れてはいけません。冬山に登って雄大な雪景色を撮るのもよし、「雪まつり」をはじめとした雪国の行事をモチーフにしてもよし。また、ちょっと視点を変えて、「都会のビル街に降った束の間の雪」なんていうのも、案外面白い被写体となるかも知れません。寒い中、カメラを担いで撮影に出かけてゆくのはちょっとおっくうにもなりますが、今回の特集で登場していただいた風景写真家・高田誠三先生もおっしゃっているように、「積極的に出かけてゆかなければ、良い被写体との出会いもない」のですから、皆さんも寒さに負けずにがんばって下さい。



坂下裕幸様・宮崎県「ママ、助けて!」
キャーこわいよう。割れんばかりに泣き叫ぶ声が聞こえてくるようです。ママがいるから怖くないヨ。



中田和子様・奈良県「わんぱく兄弟!」
ガッチリ抱きあった二人。やんちゃで元気そうなお兄弟です。このくったくのない笑顔にはかないません。



木田敏忠様・広島県「祈り」
大人に混じって神妙な面持ちで一心に祈る姿が却って可愛らしくほほえましい一枚です。何をお祈りしているのでしょうか。



松浦健次様・徳島県「わ!!」
「わ!!」という声が聞こえてきそうです。鏡に写った表情も光が反射せずに撮れていて声が共鳴してくるようです。



時松はるか様・福岡県「節水にご協力お願いします」
流しの中でいい気持ち。キレイにしてもらったのかな……。今しか使えない特製プール、この子にとって後に貴重な一枚になることでしょう。



二岡康浩様・鳥根県「アーン」
虫歯予防のポスターのようですね。表情が何ともユーモラスです。お母さんの願い通り元気に育ってね。



八束純司様・愛媛県「活字になじむ?」
英才教育は早めにはじめたい記事を読んでいるみたいに見えます。思わず笑みがこぼれてしまいます。



森本小百合様・山口県「おいしいネ!」
本当においしいですね。メロンの甘い味からこの表情から伝わってきます。おいしいからといって食べ過ぎないようにね。



荒川みち子様・福岡県「我が家のひょうきん族」
「とってもひょうきんなア・タ・シ。みんなを楽しませることにしてはピカイチなんだから。でもね、素顔はとってもカワイイのよ」本当に愛らしさひょうきんさが同居している楽しい作品ですね。



森 善広様・鳥取県「夢の中でも」
初めのうちは仲良く眠っていたのでしょうか……。眠っていてもやっぱり年の差にはかないません。顔にぐいぐい足を押しつけられながら、皆たくましく育つのだ! 負けるな!



原口浩如様・福岡県「お母さんといっしょ」
お母さん、大好き。ママにもたれてとっても幸せそうです。もうすぐお姉ちゃんになるんです。



山田敏様・大阪府「視線」
おすまし顔でポーズ。どんな絵に仕上がるのか、ちよっぴり心配そうです。大丈夫、可愛く描けていますヨ。



都裕子様・愛媛県「おしり美人」
まあ、とつてもかわいなおしり美人さん! くねっとなつて腰のラインがとってもセクシーです。二人とも将来にむけて今から磨きをかけなくっちゃね。



山下透様・徳島県「おもちゃ箱でお昼寝」
おやあや、おもちゃ箱でお昼寝ですか。おもちゃ達に紛れてしまえそう……。寝息まで聞こえてきそうです。どんな夢を見ているのかな?



牧野 進様・岡山県「体重測定」
元気に早く大きくなって。この笑顔を見つても眠っていたい。ご家族の思いが伝わってくるようです。



丹羽弘子様・兵庫県「なかーよし」
揃った、揃った。大勢の仲間たち。これだけ並ぶと迫力があふれます。ユーモアあふれる作品です。



古川正明様・福岡県「こんな顔イヤダ〜」
三人ともなかなかの変装名人ですね。一人一人の顔を見比べれば見比べる程、笑いのこみあげてくる作品です。ヒザの上の猫ちゃんがまた、いい味を出していますね。



小菊幸恵様・富山県「たちしよん」
「あらっ大変!」というママの声が聞こえてきそうですが、無邪気で可愛らしさのあふれる一瞬ですね。オシッコの先がキラッと光っていて、翼があれば天使の様です。

女性記者が選んだ
(第2回チビッコ写真コンテスト)



チビッコ写真館

力作揃いの「第2回チビッコ写真コンテスト」にたくさんのご応募ありがとうございました。ここでは、入選作品の中でも特にカワイイ! おかしい!と思える写真を「写友缶」の女性記者が選んでみました。女性の眼で見たおもしろ写真さすがに女性らしい? コメントです。



三原博之様・鳥根県「おまchuり」
とっても仲良しの2人? 「これからお祭りに行くなら、気をつけてネ」とワンちゃんが言いたげ。周りから「アラアラ」と声が聞こえてきそうです。



中村貴樹様・長崎県「ぶはーっ!」
「ワッ! ガンバレ!」興奮と熱気が伝わってきます。晴れ渡った空のもと、カワイい頭張った子。



審査員 浜美枝さん

昭和35年、東宝よりデビュー/主な出演、昭和42年「007は二度死ぬ」、昭和50年フジテレビ「小川宏ショー」、昭和55年「いい朝8時」、昭和58年よりTBSラジオ「浜美枝のいい人みつけた」放送中。

昭和59年二年間NHK教育テレビ「日曜美術館」司会等、映画、テレビ出演の他、各種委員を歴任。国土庁農村アムニティ審議委員、東京都森林を考える懇談会委員、農山漁村婦人ビジョン懇談会委員。著書に「やまぼうしの花咲いた」(文園社)、「逢えてよかった」(文園社)、「マナーはおしゃれ」(開隆堂)、「花織の記」(文園社)。

まぶしい笑顔大募集 第2回チビッコ写真コンテスト

入賞者発表!

「お客様の写真・お子様と家族・お子様と動物など子供が写っているならなんでもOK!」をテーマにスタート(平成6年7月15日~8月31日応募)した【第2回チビッコ写真コンテスト】はお父さん、お母さんから12,000点ものご応募がありました。どの作品も甲乙をつけがたいほどの「まぶしい笑顔」ばかりで、浜美枝さんも感動の連続でした。



ニコン F 801 S 35mm A E R V P



三加茂幸子さんを出雲店青山店長がインタビュー

青山店長 撮影された時の状況を教えてください。

三加茂さん 平成6年8月7日の午後6時頃、曇りの日でした。

青山店長 撮影の狙いは何ですか?

三加茂さん 子供たちが浴衣を着せてもらい、そのうれしさが伝わってくるような場面でした。偶然そんな場面に出会い、思わずシャッターを切りました。

青山店長 カメラ歴は何年ぐらいですか? また得意なジャンルは何ですか?

三加茂さん 4年ぐらいになります。今回の作品のように、子供の笑顔をとるのが好きです。

青山店長 これからはどのような写真を撮られる予定ですか?

三加茂さん 私の好きな子供たちをはじめ、身近なものを中心に撮影してゆきたいと思っています。

最優秀グランプリ <1名> 賞金10万円と楯
「七夕祭り」 三加茂幸子様・島根県
 寸評 日頃はあまり着ないはずなのに、日本の子供にはどうしてこんなに浴衣が似合うのでしょうか。七夕祭りの夕暮れ時、構図も色調もそして子供たちの笑顔も、作画的でない自然さにおいて天下一品。笑い声とおしゃべりが今にも聞こえてくるようです。

最優秀賞 <5名> 賞金5万円と楯

<p>「夏の日」宮沢千春様・長野県 「父が燃える山笠」中村禮子様・福岡県</p>	<p>「夏の日」宮沢千春様・長野県</p>	<p>「祭りの子」桑名拓次様・千葉県</p>	<p>「真剣」坪田敦全様・兵庫県</p>	<p>「ガオー」池田克人様・広島県</p>
--	-----------------------	------------------------	----------------------	-----------------------

優秀賞 <10名> 賞金3万円と楯

<p>「暑い」巨風間裕子様・新潟県</p>	<p>「はじめてのお化粧」清水美千代様・愛媛県</p>	<p>「つま!えたい!!」藤家ゆかり様・福岡県</p>	<p>「フットクリム」平田晴人様・岡山県</p>	<p>「キュウリでシユワッヂ」松本卓様・福岡県</p>
<p>「おとうさんとぼく」岡崎恭昌様・岡山県</p>	<p>「木登り大好き」末尾修様・島根県</p>	<p>「着なれぬ暗れ着」安野茂子様・高知県</p>	<p>「何が見えるの?」中村法子様・千葉県</p>	<p>「試練」村山繁美様・福岡県</p>